

Ⅲ 典型となる実践例

○学校・学級経営の充実・深化

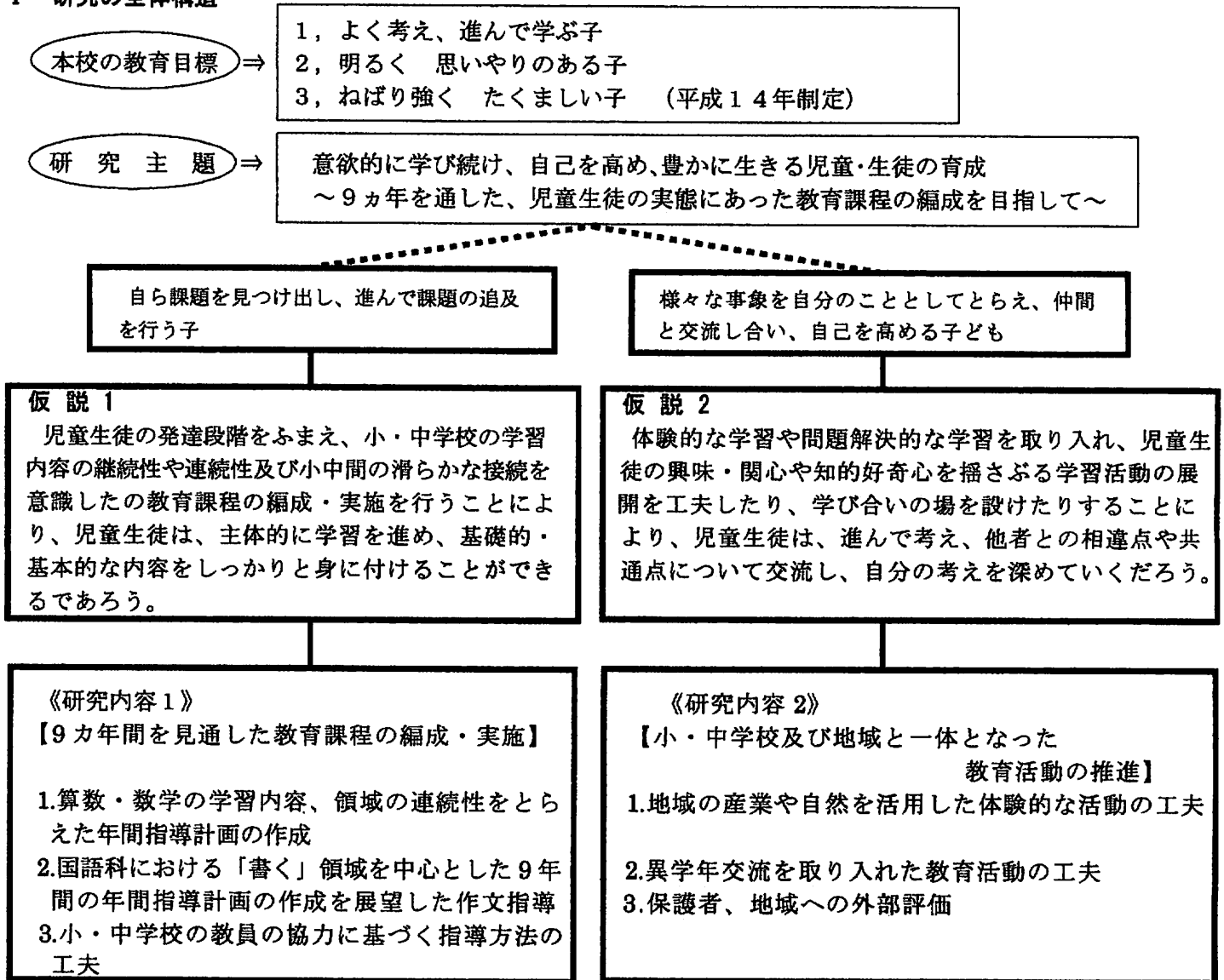
課題 1 確かな経営理念と特色ある教育計画の創造

実践例 三特性を生かした特色ある学校経営(稚内市立天北小中学校) ～小中一貫教育～

意欲的に学び続け、自己を高め、豊かに生きる児童生徒の育成

～9ヵ年を通した、児童生徒の実態にあった教育課程の編成を目指して～

I 研究の全体構造



Ⅱ 研究の概要

1, 9カ年間を見通した教育課程の編成・実施 (研究内容 1)

9年間を通して、意欲的に学び続け、自己を高め、豊かに生きる児童生徒を育成することを目指し、小中一貫した教育課程編成のあり方や小・中学校教員が協働で進める学習指導及び連携を効果的に推進するための学校運営のあり方について、併置校の特性を生かし、実践的な調査研究を進めてきた。

(1) 系統性や児童生徒のつまづきに配慮した算数・数学の年間指導計画の作成

9年間を見通し小中一貫した指導を意図的・計画的に取り組むために、算数・数学と国語における児童生徒の実態把握とともに、系統性・継続性を重視した算数・数学の検討を行い、児童生徒のつまづきを明確にした算数・数学の年間指導計画の作成と国語の「書く」領域における発達段階を踏まえたカリキュラムの検討作文指導の指導目標や指導方針の設定をした。

【第6学年の年間指導計画より】

月	単 元	時 数	学 習 内 容	上の学年へ	下の学年へ
4 (12)	1.整数の見方 P.4~13	9	○倍数、公倍数、最小公倍数の意味と調べ方 ○約数、公約数、最大公約数の意味と調べ方 ▽わくわくチャレンジ【どの動物かな】	△式の計算 (中3) △因数分解 (中3) △正の数、負の数 (中1) △平方根 (中3)	▼整数の見方 (小5) 偶数、奇数
	復習1 P.14		2	○既習事項の復習	
5 (12)	3.立体 P.26~39	13	○平面の意味 ○直方体、立方体の意味、性質 ○直方体、立方体の面や辺の垂直、平行関係 ○直方体、立方体の見取り図、展開図の意味、作図 ○角柱、円柱の意味、性質 ▽わくわくチャレンジ	△平面図形 (中1) △空間図形 (中1) △三角形、四角形 円 (中2)	▼箱の形 (小3) 立体図形の構成面、辺、頂点 ▼円と球 (小4) 球の意味、性質 ▼円 (小5)

(2) 作成及び表記の工夫

- ◇小学校から中学校9カ年の系統性を明確にする。
- ◇児童・生徒の実態を踏まえ、理解しにくい学習内容の難易度やつまずきやすい具体的な問題を明確にする。
- ◇児童・生徒が理解しにくい学習内容を太字にする。
- ◇系統性については上の学年と下の学年への欄を分けて表記する。
- ◇つまずきやすい問題や誤答を×印として表記する。

2. 国語科における「書く」領域（作文指導を中心）から表現力の育成を目指す取り組み

(1) 小中一貫した作文指導

1) 作文指導の目標

学 年	指 導 目 標
低 学 年	○伝えたいことを意識した文章が書ける
	○時間的順序を追って文章が書ける
中 学 年	○書く事柄の取捨選択ができる
	○段落構成を意識した文章が書ける
高 学 年	○主題や論旨を明確にした文章が書ける
	○主題や論旨を明確にした文章が書ける
中学1年	○自分の意見・感想を明確に述べるができる
	○取材した内容（集めた情報・体験したこと）と自分の意見・感想を組み合わせた文章を書くことができる
中学2,3年	○論理性を重視した構成ができる
	○適切な情報を選んで論旨を構成した文章が書ける

2) 作文指導の方針

作文指導において「自分を表現する」ことは大命題の一つであり、文章を書くということは「個性の発現」である。作文指導に当たっては、

- 1.書く内容を豊かにする…経験、体験を深める
- 2.書く技術を高める
- 3.書く意欲を高める…思考力を高める、適切な目標・題材の提供

2 小中学校及び地域と一体となった教育活動の推進（研究内容2）

(1) 地域の産業や自然を活用した体験的な活動の工夫

小中の教員が連携して総合的な学習の時間に取り組むためには、年間を見通した連携の枠組みとなる

年間計画が必要であると考え、小中一貫して「ふるさと天北」のテーマを追求する年間指導計画を作成した。地域の人材や施設を積極的に活用し、7年間を一貫して指導する調査・研究、体験活動や伝統文化を継承する「天北タイム」、小学校4年間を通して地域の実りを楽しむ農園活動に取り組んだ。学習のまとめとして、研究発表会の開催、学校行事や「神社祭典」、「酪農祭り」などの地域行事での成果発表、文化祭バザールでの農作物の販売や全校での試食を行い、全校の児童生徒や保護者、地域住民に活動の様子を知らせるとともに、学習意欲の向上を図った。

1) 『ふるさと天北』の活動内容と身につけさせたい力

	研究活動・産業体験活動			天北タイム			農園活動		
	学習内容	学習方法	身につけさせたい力	学習内容	学習方法	身につけさせたい力	学習内容	学習方法	身につけさせたい力
小3,4年	天北地区の酪農・林業・鉱業	見学 実習	・学習課題を見つける力 ・調べ方を見つける力 ・意欲的に活動する態度 ・大きな声、はっきりした態度で発表する力	一人 グループ	・グループにおける協力性 ・技能に対する向上心 ・意欲的に発表に取り組む態度	・グループにおける協力性 ・基本技能の修得 ・文化祭後のリーダー性 ・表現を工夫する力	選ぶ 聞く ・植 え 地域 の 世話 人々	・上 級 生 家庭 調 べる	・作物の生長に関心を持つ ・協力して作業に参加する態度 ・大きな声、はっきりした声で発表する力
小5,6年	稚内の歴史・自然・産業	見学 実習	・活動の見通しを持つ力 ・情報を取捨選択する力 ・意欲的に活動し、活動内容を工夫する力 ・発表方法を工夫し表現する力	車 ・ 天 ・ 北 全 体 に	・グループにおける協力性		観察 する 収穫 す		・グループにおける協力性・記録化する作業において、変化を発見、確認できる力 ・発表内容を工夫、吟味し、意欲的に活動する力
中1年	天北地区	事前調	・自分が知りたいこと、活動し	ソ					

2) 異学年交流を取り入れた教育活動の工夫の活用場面

小・中独自又は小中全学年で取り組む縦割り班活動や異学年交流の場面を明確にし、運動会、文化祭をリーダーシップと挑戦する意欲を育てる場面として位置づけた。児童会・生徒会執行部で構成される小中合同委員会の取組の充実を図った。

<p>【小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎農園活動 ◎地域清掃活動（クリーン作戦） ○クラブ活動 ○旗の波作戦（交通安全啓蒙） ○小学校遠足（1~4年） ○雪中レクリエーション ○児童会常任委員会 ○新入生を迎える会 ○卒業生を送る会 	<p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒会常任委員会 ○総合的な学習の時間研究発表 ○中学校遠足（1~2年） ○新入生を迎える会 ○卒業生を送る会 ◎:縦割り班活動 ○:異学年交流
--	--

※児童生徒の実態把握及び指導方針の共通理解を図る取り組み
併置校の教職員として全員で全校の児童生徒の様子を見つめ、成長を支えるために、毎朝児童生徒の状況を交流し、実態把握と指導方針や方法について共通理解を図り、小中一貫した生徒指導のあり方について交流・協議を行った

<p>【小中合同】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎運動会 ○文化祭 ○総合的な学習の時間「天北タイム」 ○交通安全青空教室 ○地域祭典 ○児童会・生徒会小中合同委員会 ○全校朝会 ○中学校弁論大会

※リーダーシップと挑戦する意欲を育てる異学年交流の取り組み
運動会、文化祭をリーダーシップと挑戦する意欲を育てる異学年交流の重点場面として位置づけた。全校縦割り班活動による団体種目や全校合唱に付け加え、児童生徒が選択する小中合同種目の設定など企画・立案・運営から合同委員会としての取り組みの充実を図った。

※保育所と小中合同の学校行事の取り組み（保・小連携）

小中一貫教育に加え、幼少連携の視点から、運動会・文化祭の合同開催。お互いの授業や保育観察と実態交流なども定期的に行い子育て課題の共有化を図る取り組みを行った。

課題2 開かれた学校・学級経営の創造

実践例1 地域との連携を大切にした学校経営(増毛町立別荘小学校)

I 研究主題・研究仮説・研究の視点など

研究主題

人や地域とかがわりながら、自ら課題を追究する子どもの育成
 ～ 社会科におけるコミュニケーション活動を通して ～

研究仮説(1) (課題の発見・追究)

地域の特性を生かした学習を通し、子どもに人的・物的資料と直接的なかがわり(社会科におけるコミュニケーション活動)を持たせることで、課題を意欲的に発見・追究する子どもを育てることができる。

研究仮説(2) (課題の解決)

自分の考えを表現する場を意図的に設定し、他教科で身に付けたコミュニケーション能力を発揮させることによって、自他の考えを練りあってより良い考えを持つことができる子どもを育てることができる。

視点1 社会科におけるコミュニケーション活動の設定

- 地域の特性を生かした指導計画の作成
- 人や地域・自然とのかかわりを重視した教材化の工夫

視点2 コミュニケーション能力の育成

- 発達段階に応じたコミュニケーション能力の育成
- 社会科・生活科と総合的な学習の時間との関連を生かした指導

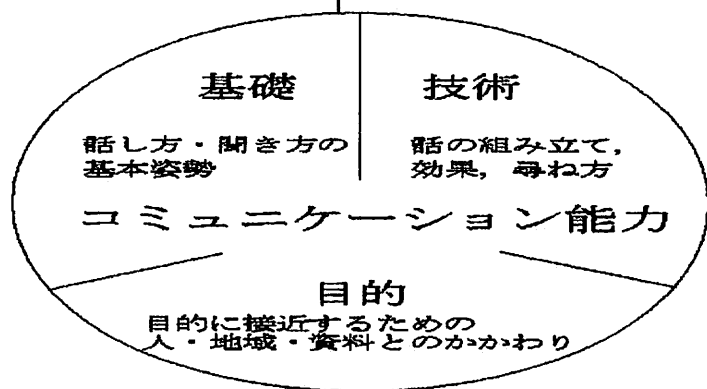
コミュニケーション活動

社会科におけるコミュニケーション活動を「人・地域(自然)・資料とのかかわり」と定義し、積極的なかがわりにより課題を発見・追究させるようにする。

「かがわり」とは

「かがわり」とは、獲得してきたコミュニケーション能力の基礎と技術を使い、目的達成のため学習活動をすることである。

教師が、かがわりを持つ場の設定や事前指導など、どのように「かがわり」を持つか、何に「かがわり」を持たせるかを考え、指導・支援をすることによって児童の自ら追究する力が高まり、目標が達成できると考える。



本校におけるコミュニケーション能力のおさえ
 コミュニケーション能力を、基礎、技術、目的の3つに分けて、教師のおさえとした。

研究教科だけではなく

様々な教育活動にコミュニケーション活動を取り入れ、全教職員で能力を育成していくとともに、行事等においても可能な限り地域に根ざした「かがわり」を取り入れ実施していく。

Ⅱ 学校・学級経営の充実・深化（課題2 開かれた学校・学級経営の創造）との関連

推進事項 「地域に根ざした教育と体験的な学習を通して自主性や連帯意識を高める指導のあり方」を意識し、地域・保護者との連携を取り入れた活動

(具体例) 海浜教室

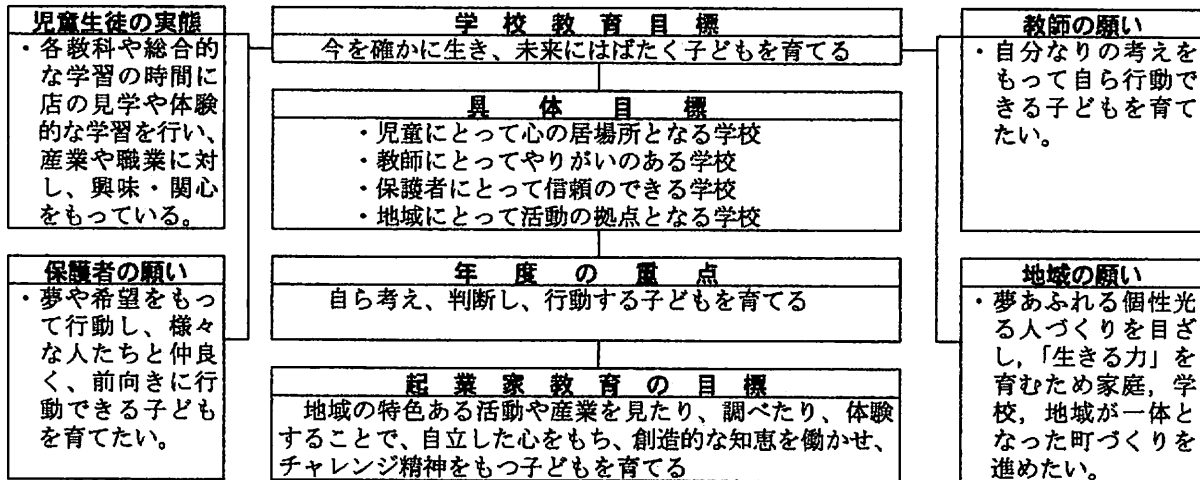
	(探求する力)	(交流する力)	(表現する力)
ねらい	(1) 海での様々な体験活動を通して、海と自分たちの生活との関わりについて考えることができる。 人・地域・自然とのかかわり	(2) 集団の中での規律を身につけ団体行動を正しく実践し人間関係を豊かにし公衆道徳を身につける。 自然とのかかわり	(3) 海とふれあう楽しさを身体で表現しお手伝いしてくれた父母への感謝の気持ちを表すことができる。 人とのかかわり
内容	(1) 安全教室 着衣泳・ライフジャケット体験、人工呼吸訓練等を行い、海での安全な遊び方、もしもの時の対処方法を学ぶ。 ※ 地引網漁体験(本年度未実施) 地引き網を引き、作業の大変さや魚が捕れた時の喜びなどを感じ取る。	(2) 海水浴 海に入って海水浴を楽しんだり、海にいる生物と触れ合ったりする。 (3) レク 昼食後、レクとして保護者とともにスイカ割りをする。	(4) 昼食 ウニ汁その他PTAが用意してくれた海の幸で昼食をとる。 (5) 感想発表 安全教室後及び閉会式時に感想発表を行い、海とふれあう楽しさ・保護者への感謝の気持ちを表し、表現力の向上を図る。
具体的実践	○北海道海難防止センターの協力で、低・中学年は着衣水泳・ライフジャケット体験、高学年は更に人工呼吸の訓練を実施。保護者の紹介で実施された。保護者の願いが反映している。 ○地引網漁体験は日程の都合上行えなかった。昨年度は量は少なかったが魚の他にタコを捕ることができた。これには児童は感動し、その後の意欲に繋がった。	海水浴は児童の楽しみだけではなく以下のねらいで、実施している。 ○海の生き物と触れ合い、興味・関心を高める。 ○海の生き物と触れ合う、自由にウニを捕り(許可は得ています)その場で焼いて食べるなど、楽しみながら体力向上(泳ぐ・潜る力の向上)を図っている。 ○海水浴をする場所に捕ってきておいたウニを巻いていただくなど、OBの理解・協力を得ている。	○ウニ汁は前日に殻むき・取り出し等の準備を、保護者に協力いただき、連携して行っている。(全員ではないが)児童もその場に来ており、仕事を見て、或いは一緒に作業を行い、仕事の内容や大変さなど体験的に学んでいる。 ○高学年から感想発表をしている。これにより、低学年においても高学年の感想を参考にしながら、自分なりの感想を発表できるようになっている。
評価・反省	○ねらいの達成度 (1)~(3)平均3.6(満点4) 児童の様子 ○海浜教室が楽しかったこと、ライフジャケットが大切であることなどを話していた。 ○安全教室では寒がっていたが、海水浴では元気に遊ぶなど海に慣れてきて楽しくできていた。 内容 ○海の安全教室の内容は有意義であった。 ○着衣泳等体験がメインで、安全教室はとても良かった。		

実践例2 起業家教育を教育課程に位置づけた学校経営(下川町立下川小学校)

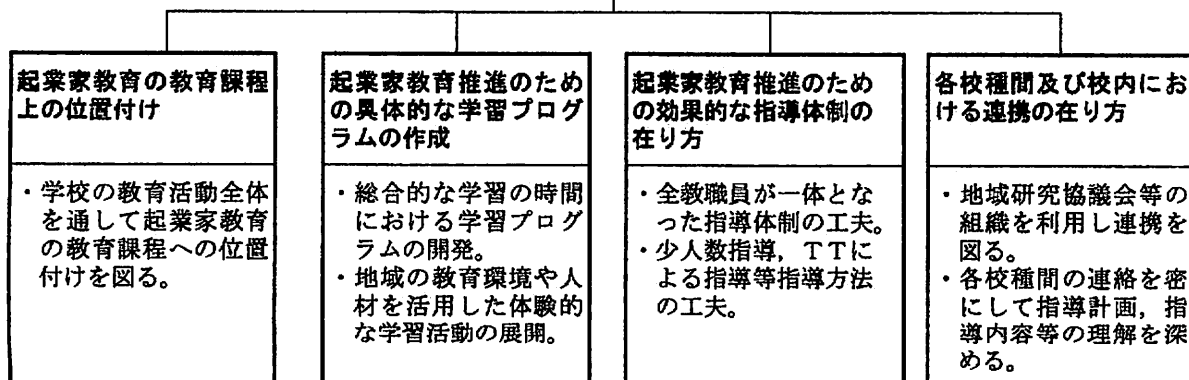
I 実践研究のテーマ

自分の力で自分の生き方を切り拓いていく子どもの育成

II 研究の全体構造

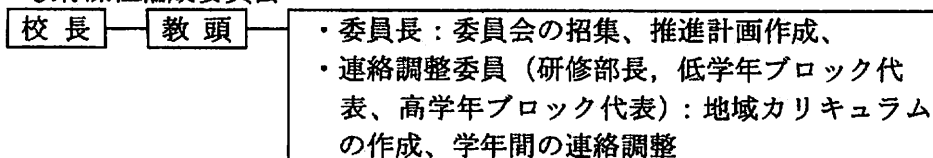


	育 年 成 中 す る 力		
	低 学 年	中 学 年	高 学 年
人間関係形成能力	・友だちと仲良く遊び助け合う。	・自分や友だちのよいところを見つけ、協力して学習や活動に取り組む。	・異年齢との活動に進んで参加し役割と責任を果たそうとする。
表現力	・挨拶や返事ができる。 ・自分の考えをみんなの前で話す。	・自分の意見や気持ちをわかりやすく表現する。 ・友だちの考えや気持ちを理解しようとする。	・話し合いに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする。
企画力	・五感を活用した試行錯誤を繰り返し、様々なことに挑戦する。	・失敗を恐れず、自分なりの思いや願いをもち、進んで学習活動に取り組む。	・自分の夢や憧れをもち、その実現のために計画的に取り組もうとする。
情報活用能力	・身近で働く人々の様子がわかり、興味・関心をもつ。	・いろいろな職業や生き方がわかる。	・身近な産業や職業の様子、その変化がわかり、自分に必要な情報を探す。
問題解決能力	・自分のことは自分で行うとする。	・自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。	・自ら生活や学習上の課題を見つけ、自分の力で解決しようとする。



III 校内指導体制

教育課程編成委員会



IV 具体的な学習プログラム（平成16年度実施）

(1) 教育課程上の位置付け

- 教科等 総合的な学習の時間
- 学年 第3～6学年
- 単元名 「下川子ども祭り」（12時間扱い）

(2) ねらい

- 中学年
店づくりへの思いや願いをもち、その実現に向けて自分の役割を積極的に果たす。
- 高学年
子ども祭りの活動の目的をもち、友達と協力してその実現のために計画的に取り組む。

(3) 指導計画

※ 中)は中学年 高)は高学年

職	学 習 内 容	教 師 の か か わ り	○評価の目安【観点】(方法)
つ か む 1	<p>○オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年の子ども祭りを振り返り、今年度の改善点や新たにやってみたいことなどについて話し合う。 ・ 同じ願いをもつ子どもがグループを作る。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">おばけやしき</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">的当て</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ボーリング</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">くじ</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度の子ども祭りのビデオや写真などを提示、意欲をもたせる。 ・ 活動への期待感を高める。 ・ 自分の願いが明らかでない子どもに対しては、次時までには決めるよう促す。 ・ 多くの人に喜んでもらえるような店づくりを企画するよう促す。 	<p>中) 店づくりへの期待を高める。 【問題解決能力】(発言)</p> <p>高) 進んで話し合いに参加し、よりよいものを考えようとする意欲をもつ。 【問題解決能力】(発言)</p>
考 え る 3	<p>○企画立案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各店ごとに、リーダーを選出し、役割を分担し、店の目標、チラシのデザイン、必要な材料、物品購入計画、PRの方法などについて話し合う。 ・ 他のグループと交流し、計画書を改善し、教師に提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループに割り当てられた教員が、日程や活動内容及び配慮事項等の指導計画を作成する。 ・ 活動の見通しをもたせる。 ・ 計画書を点検し、不備な点について考えるよう助言する。 	<p>中) 自分なりの思いや願いをもつ。</p> <p>高) 自分の夢やあこがれをもち、その実現のために計画的に取り組む。 【企画力】(発言・行動)</p>
取 組 む 5	<p>○準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な物品の購入 ・ 計画書にしたがい作業を進める。 ・ 品物づくり ・ 店のPRの準備をする。 ・ グループ毎に活動の節目にミーティングをもち、店の内容や活動について改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の方（商店等）からアドバイスを受ける。 ・ 製作活動への支援を行う。 ・ 安全面への指導や配慮を徹底する。 ・ 改善を繰り返し、よりよい物を作ろうとする姿勢を認める。 ・ 相互評価や自己評価の場面を設ける。 	<p>中) 役割を自覚し、最後まで仕事をやり通す。</p> <p>高) 活動上の課題を見付け解決しようとする。 【問題解決能力】(行動)</p> <p>中) 自分や友達のよさを見付け、協力して取り組む。</p> <p>高) 下学年の模範となり、自分の役割と責任を果たす。 【人間関係調整】(行動)</p>
広 げ る 2	<p>○下川子ども祭り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 店のPRをする。 ・ 店の運営を役割分担して行う。 ・ 販売体験 ・ 後かたづけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園や保育所の子どもや地域の方々を招待する。 ・ 幼児や地域の方への対応やマナーについて指導する。 	<p>中) 自分の気持ちを素直に表現する。</p> <p>高) PRの方法を工夫してわかりやすく表現する。 【表現力】(発表)</p>
ま と め 1	<p>○反省会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども祭りの活動を振り返り、成果と課題について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動を通して、よかった点や改善点を知らせる。 ・ 相互評価や自己評価の場面を設ける。 	<p>中・高) 活動を振り返り、自信を高め、新たな課題を発見する。 【問題解決能力】(発言・自己評価カード)</p>

(4) 具体的な学習活動

○単元名「下川子ども祭り」(3～4/12時間)

○目 標

- 中学年
店づくりへの思いや願いをもち、その実現に向けて自分の役割を積極的に果たす。
- 高学年
子ども祭りの活動の目的をもち、友達と協力してその実現のために計画的に取り組む。

○展 開

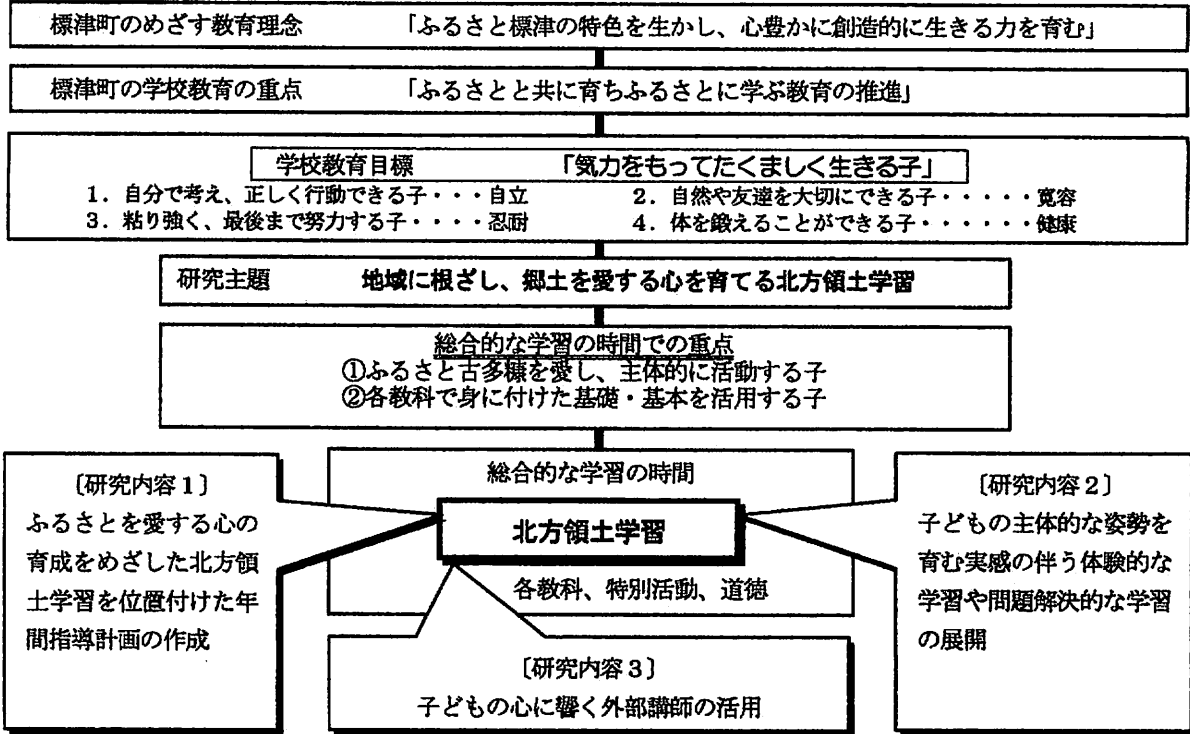
	学 習 活 動	教 師 の か か わ り
課題確認	<p>○今日の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">子ども祭りの企画書を作ろう</div> <p>・出店の共通のめあてを決める。 「楽しくて、行列のできる店にする」</p>	<p>・各グループに割り当てられた教員が、日程や活動内容及び配慮事項等の指導計画を作成する。</p>
追究	<p>○グループごとに企画書を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各店のリーダーの決定と役割分担 店長、副店長、製作部長、宣伝部長等 ・店名を考える。 ・店のめあてを決める。 各店の目標を話し合う。 ・店のシンボルマークを決める 店の看板、ちらし、ポスターに使う。 ・活動計画を立てる。 活動時間、内容について話し合う。 ・作る物や購入する物の計画を立てる。 必要な物の準備、予算(1店につき2000円) 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な活動を考えさせ、活動への意欲化を図る。 ・児童の願いを大切に、活動への明確な見通しをもたせる。 ・児童の発想やアイデアを大切ににする。 ・グループでの話し合いの時間を確保する。 ・活動の時間や予算等を明確にし、計画的に取り組めるようにする。 ・必要な材料や品物の購入について地域の人たち(商店等)の協力を得る。
まとめ・発表	<p>○各グループの交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに決まったことを発表し交流する。 <p>○計画の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの発表を聞き、改善を図る。 <p>○自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動を振り返り、次の活動への意欲化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝える相手を意識し、わかりやすく発表するように意識させる。 ・互いのグループの良い点や改善する点について交流し、今後の活動への見通しをもたせる。 ・計画書を点検し、不備な点について考えるよう助言する。 ・自己評価カードや相互評価を記録等を参考に活動を振り返らせる。

実践例3 北方領土学習を取り入れた学校経営(標津町立古多隼小中学校)

地域に根ざし、郷土を愛する心を育てる北方領土学習

～「幸せ」をテーマにした総合的な学習の時間「北と南を結ぶ昆布の道」を手がかりに～

I 研究の全体構想



II 実践の概要

1 北方領土学習を位置付けた年間指導計画の工夫(研究内容1)

地域に根ざし、故郷を愛する心を育成する北方領土学習の展開には、北方領土学習を総合的な学習の時間に位置付け、各教科等との関連を図り指導することが大切であると考え、年間指導計画<表1>を作成した。

本校では、総合的な学習時間全体計画において、めざす子ども像を設定し、それに迫る小学校の学習内容を3領域(「みどりの時間」「学級タイム①」「学級タイム②」としている。3・4年生では、「学級タイム①」

において「幸せ」をテーマとした学習を年間通して展開することとした。子どもの実態から、やさしさや幸せについて追究する学習が必要だったからである。2学期には、北方領土学習をテーマ学習の一つに位置付けた。それは、北方領土学習を単なる地名・面積や領土問題などの社会的な知識・理解だけでなく、かつてそこに住んでいた人々の思いや願いに子どもたちが触れることが、故郷を愛する心の育成につながると考えた。

また、子どもが各教科で身に付けた基礎・基本を、自分自身で総合化し、問題解決に取り組む充実した北方領土学習の展開のためにも、各教科等との関連を図った年間指導計画を作成した。

このことにより、子どもたちは主体的に学習に取り組み、社会的な学習だけでなく、自分自身の生活の仕方を振り返る学習を展開する北方領土学習を行うことができ、子どもたちの心の成長がみられた。

小学校のめざす子ども像			中学校のめ
8・4年生	5・6年生		中学生
・各教科で身に付けた基礎基本をもとに、課題を見付け、問題解決に取り組む子	・各教科で身に付けた基礎基本をもとに、自ら課題を見付け、問題の解決や探究活動に主体的に取り組む子		・自ら課題を見付け、自ら、考え、主体的に判断し、取り組む子
・インタビュー活動や資料収集活動を通して、問題解決に取り組む子	・インタビュー活動や資料収集活動を通して、自ら問題解決に取り組む子		・学び方やもののえ方を身に付け、取り組む子
・発表活動や体験活動を通して自ら考える子	・発表活動や体験活動を通して自ら考え、行動する子		・自己の生き方を

小学校の学習内容			中学校
みどりの時間	学級タイム①	学級タイム②	1年生
・土に学ぶ活動 ・土に働きかける活動 ・土を利用する活動 ・みどりに触れる活動	・子どもの実態から出発したテーマ学習 ・情報教育、性の学習	・三大行事、その他の行事に向けた、主題・探究・表現活動	・古多隼タイム ・学級裁量 ・表現活動
縦割り班活動	学級集団活動	学級・学年間活動	学級・学年活動

各教科	特別活動	道徳	各教科	特別

2 子どもの主体的な姿勢を育む体験的な学習や問題解決的な学習の展開（研究内容2）

地域に根ざし、郷土を愛する心を育成する北方領土学習の充実をめざすためには、子どもが学習に主体的に取り組む学習展開が大切であると考えた。そのためには、学習過程の中に、子どもが実感の伴う体験的な学習や問題解決的な学習を取り入れるようにした。本単元では、普段子どもの見ている島が北方領土であることを学習のスタートとした。学習の中心として多楽島を取り上げ、その産業や暮らしぶりを元島民（Hさん）から学ぶ体験的な学習、また、その主産業であった昆布とかつて豊かであった島の暮らしとの関係を探る調べ学習を中心とした問題解決的な学習を取り入れた。さらに、3・4年生の子どもにとって具体的な思考ができることをねらって、写真や作業などの実感の伴う活動場면을重視した。そのことにより、子どもたちは、自分で学習を進めることを体感し、主体的に創造的に北方領土学習に取り組むことができた。

単元「北と南を結ぶこんぶの道」～Hさんの生き方から、何が「幸せ」につながるかを考える～』小単元1・2より

学習過程とSさんの学習姿勢の高まり

1 ①標準のカントリーサインを見て
カントリーを提示して気づいたことを出し合う。

標津町
Shibetsu Town

標津町は、鮭の町。海が見える。オホーツク海山？横に長い島色丹島？北方領土だ

千島列島は、すごくいっぱいあってびっくりした。（中略）北方りょう土はぬすまれたし、まだびんぼうだと聞いたけど、本当かなあと思いました。（Sさん）

地図帳を基に、標津の東に連なる島々（国後島、択捉島、色丹島、歯舞諸島）30ほどを紹介する。自分たちの見ている島の向こう側に連なっている島々があることを知る。

1 ②島の面積、人口、人口密度くらべ
標津に近い5島（国後島、択捉島、色丹島、志発島、多楽島）の面積・人口・人口密度を比べる。

標津の東に連なる島々

人口密度を実感させるために、人間を切り抜き貼っていき作業を行った。その結果、多楽島の人口密度が圧倒的に多いことに気付き、子どもたちは、「小さな多楽島にたくさんの人たちがなぜ住んでいたのか」の問題をもつ。

わたしは、国後島は北海道に近いから、国後島が一番多いと思ったけど、わたしは当然、多楽島があまり人が住んでいないと思ったけど、国後島よりもいっぱいだからびっくりした。Hさんは多楽島に住んでいて、どんな暮らしをしていたのかを聞きたい。それで、どうしてこんなに人がいるのかということを知りたい。（Sさん）

1 ③Hさんの話を聞いて（元多楽島民であるHさんを外部講師として招く。）
Hさんに、Hさんの祖父がこんぶ探りを行っていたことや周りの島も海産物が豊かにとれる島であったこと、さらに、島に住んでいた当時の暮らしぶりを伝えてもらう。

Hさんの話を聞いて、子どもたちが抱いていた「貧しい島」と反対に「豊かな島」であることがわかる。
子どもたちは、「なぜ、小さな多楽島に、たくさんの方が住み、豊かな暮らしをしていた島であったのか」の問題をもつ。

Hさんのおいじさんとかは、昆布探りとかをして、それを受け継いで昆布探りをしてきた。（そういう暮らしをしてきた。）昆布探りでお金持ちになれていいなと思いました。自分もこんなにおいしい昆布を毎日食べたいなと思いました。（Sさん）

2 ①島の特産物調べ
サケ、マス、タラ、のりなどHさんが子どもころの食べ物、どの島でどれくらいとれていたのかを調べていく。（島の生産量しらべ）

多楽島の長こんぶの行

昆布は、歯舞諸島が圧倒的に多いことがわかり、子どもたちは、昆布と豊かな暮らしをつなげていった。

歯舞諸島では、物はほとんどなかったけど、最後に130290トンの昆布が採れると聞いて、そんなに採れるなんて思っていなかった。でもほかに国後はカニとエビとホタテがいっぱい採れてびっくりした。あとほかにもいっぱいあってびっくりした。（Sさん）

2 ②なぜこんぶだけでお金持ちになれた？

前時の子どもたちの感想を交流すると、「Hさんが昆布でお金もちになった。」というのが多かった。そこで、子どもたちに「Hさんは、なぜ昆布だけでお金持ちになれたのか。」を投げかけた。

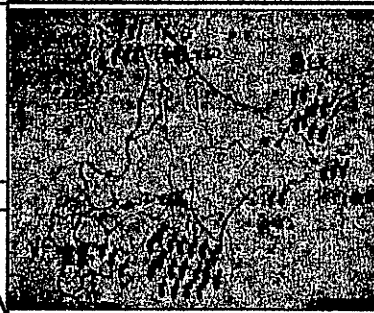
子ども の予想	①おいしい昆布だから、みんなが買った。
	②おいしいから、高くても売れた。
	③近くの島や町(根室や中標津、釧路など)にいっぱい売った。

みんなはおいしいから買った、高くても売れたと言っていた。あとで調べて、結果をみたい。楽しみ。(Sさん)

みんなが菌舞の昆布を買っているか、近くの町でいっぱい売っているかを確かめるために、家や店を調べる追究活動を行った。

③家と店のこんぶ調べ

家や店で調べてきた昆布のことを発表しあった。その結果、釧路・根室の昆布ではなく、日高昆布がたくさんあった。予想と違う結果に驚く子どもたち。「昆布は、どこへ？」

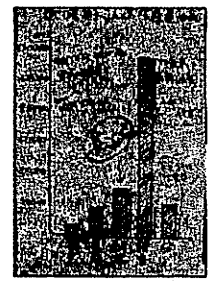
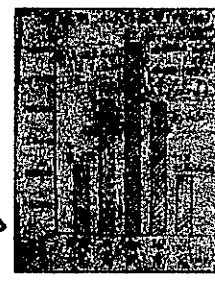


店で売っている昆布を聞いたら一番日高が売っていてびっくりした。みんなのおうちはほとんど羅臼だったけど、難しい名前のもの(燻法単産真昆布や南茅部産真昆布)もあったからびっくりした。(Sさん)

④地域ごとのこんぶの生産量くらべ

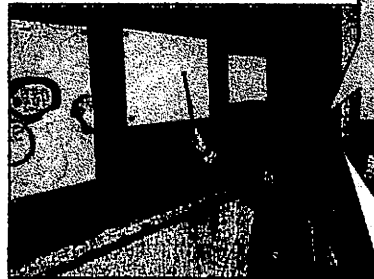
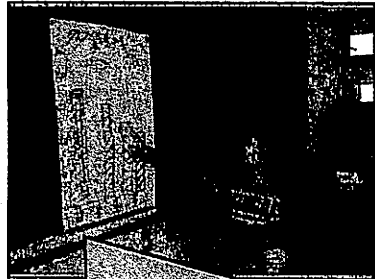
日高昆布は、ポテトチップスまでに使っているのに、釧路がなんでいっぱい採れているのか、どうしてHさんはお金持ちになれたのか不思議です。近くに売ったかと思っただけで、もっと遠うところに売ったと思う。本州の人たちに売った。理由は、本州の人たちは、魚介類はあまり普通に採れなかったから本州へ送って高く売って、すごくおいしいだしを取るために高く売っている。(Sさん)

昭和16年のグラフから、圧倒的に根室(菌舞諸島)昆布がとれていたことがわかる。その昆布はどこで売られていたのか子どもたちの疑問は深まる。「昆布は、どこへ？」この疑問に対しての子どもたちの追究活動が始まった。



⑤長こんぶはどこへ?

子どもたちは、それぞれ自分で調べたことを元に、予想を発表しあった



Sさんは「富山に行った。」と予想した。理由：大きな町はどこも海の傍にあるけど、京都や海から離れているから、海のものが多いから高く売れた。でも、昆布料理をインターネットで調べたら、富山の料理が多かったから、富山かもしれない。

K君は、九州に行った。理由：九州は日本で一番多楽島から離れているから、珍しくて高く売れた。外国まで行くと、燃料代がかかって儲けられない。
※多楽島からの距離を地図と定規を使って計算して調べた結果を棒グラフにして発表していた。

みんな説明がよくて、わかりやすくていいなと思ったけど、やっぱり自分のほうがいいなと思いました。答えを見る時はよく見て、どこに行ったら見たいです。あと料理(昆布)を調べて、ふりかけとかにもするんだなあ、すごいなあと思いました。船は初めて調べて、北前船という船を調べられて発表するとこまでできてよかったです。(Sさん)

⑥北と南を箱ぶ道

北の端の「多楽島」で取れた昆布が、江戸時代から南の端にある「沖繩」でたくさん食べられていた。

昆布を食べていたのは、何と沖縄でした。昆布は(なが昆布)だしがとれないから、だしおいしいごはんを作って食べたのだと思います。楽しかったです。(Sさん)

3 子どもの心に響く外部講師の活用(内容3)

北方領土学習を単なる社会的な知識・理解だけでなく、地域に根ざし郷土を愛する心を育む学習にするためには、子どもの心に響く場が必要であると考えた。そのためには、実際に北方領土で暮らし経験がある人物を外部講師として招聘し、本人の実体験を子どもたちに伝える場面を設定した。

本単元では、元多楽島民(Hさん)を外部講師とした。祖父が多楽島で昆布漁を営み、そのおかげでHさんは豊かな生活を送ることができていた。また、島全体もとても豊かな暮らしであった。しかし、Hさんが5歳の時、ロシア人に故郷である多楽島を追われ、財産を投げ出し、命からがら逃げ出し、着の身着のまま辿り着いた地で大変、苦勞して生活してきた。その生活を支えたHさんの父母も故郷を踏むこともなく亡くなった。そういう大変な経験をしてきたHさんではあるが、現在はロシアの人のホームステイを積極的に行ったりなどロシアの人との友好を大切にしている。このHさんの生き方に触れることこそが、子どもたちの心を育てることになると考えて外部講師として招聘したのである。

また、事前にHさんとの打合せを重視し、本単元での外部講師の出番を2回とした。1回目は、かつて島が豊かであったことを子どもたちに伝える場面とした。そのことにより、子どもたちは、豊かな島の暮らしの背景を探る問題解決的な学習を主体的に進めることができた。

2回目は、単元の最終場面として、島を追われたHさんの苦労や思い、そして、現在、ロシアとの友好に積極的に活動しているHさんの願いや生き方に子どもたちが触れる場面とした。このことにより、Hさんの生き方に心をひかれたりなどする子どもの姿を見ることができた。さらに、Hさんの生き方から学んだことを基に、自分自身の生活を見つめ直そうとする姿もあり、子どもの心の育ちが見えた。



Hさんに寄り添う子どもの姿

元島民のHさんによる紙芝居「はあちやんのしべとろ」。島の人の暮らしぶりの話。

Hさんは追い出されてかわいそうだ。



Hさんはどんなにつらいことがあっても、ぜったいにくじけないでがんばったんだ。それでHさんは悲しくてつらくて、それでもくじけないでがんばってえらいと思います。(Sさん)

＜Hさんの実体験の話＞
 ・5歳のとき、ふるさと多摩島を追われたこと。
 ・財産をすべて投げ出し、命からがら逃げ出したこと。
 ・船の身着のまままでどり着いた地で、大変な苦労をして生活したこと。

子どもは悪くない。
 揺さぶられる子どもの姿

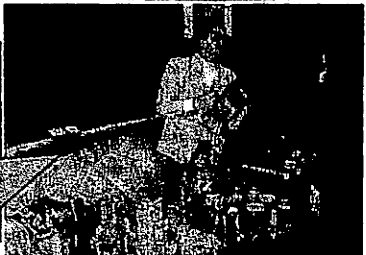
なぜ、ロシア人と仲よくしているの？

Hさんは、今どう思っているの？

ロシアの子どもたちと仲よく写っているHさんの写真



ロシアの人からもらったくさねのほみやけを披露するHさん



島を追われてつらい思いをしながるも、ロシア人と仲よくしようと行動してきたHさんの姿

＜Hさんの思い、願い＞
 はじめは、「あんな島には、三度といくもんか」と思った。今住んでいる人は、何の罪もないと思えるようになった。ロシアの人と仲良くしていくことが、島に再び帰ることに近づくことになる。
 ロシア人のホームステイも受け入れるようになった。すると、ロシア人が島へ行くのを歓迎してもらえるようになったり、暮らしている場所が喜んで引き受けるようになった。

最初は、島を返せとうらんたりするけど、Hさんは、最初はそうだったけど、でもHさんは、仲良くすれば島をかえしてもらえと思って仲良くした。だから、仲良くしたらみんな仲良くなれる。わたしは1・2年がゴミを捨てられなかったから、捨ててあげてありがとうと言われてよかったなと思った。それは人を助けて気持ちいいなと思ったから。その話がどうHさんのにつながるかというと、それは、仲良くしているからそういうふうに参加してくれるんだなと思います。だから、このあとHさんみたいに、やさしくなるとどんな嫌な人がいても仲良くしたいと思う。(Sさん)

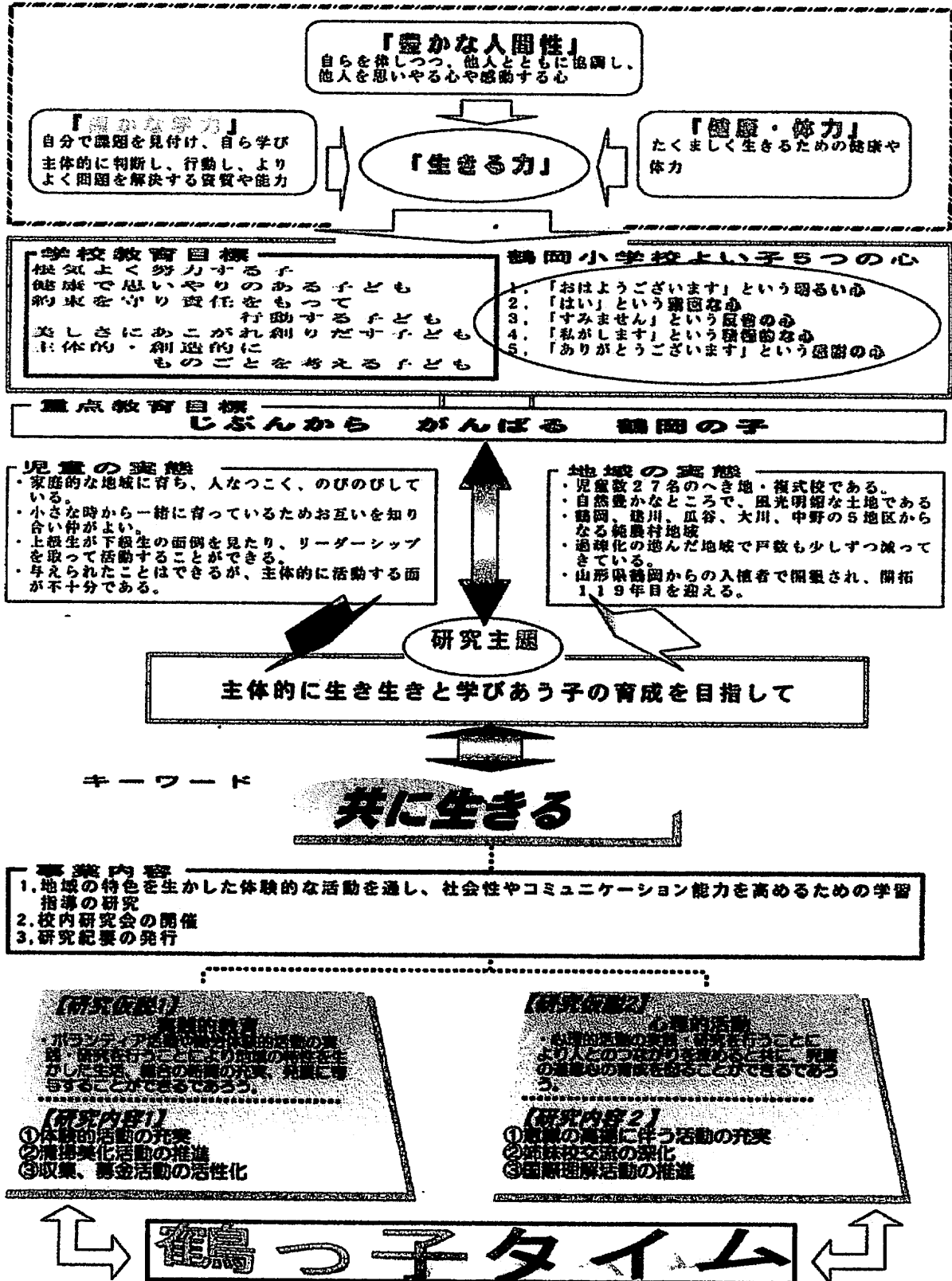
Hさんから学んだ子どもの姿

課題3 豊かな心を育む教育活動の推進

実践例1 ボランティア活動を生かした学校経営(木古内町立鶴岡小学校)

主体的に生き生きと学び合う子どもの育成

I 研究の全体構造



II 研究の概要

「鶴っ子タイム」(総合的な学習の時間)の年間指導計画

本校では、総合的な学習の時間の名称を、「地域(鶴岡)の自然や文化とより多くかかわりながら学習を進める」ことをイメージできるように、「鶴っ子タイム」とした。また、地域の産業である稲作や本校と姉妹校提携をしている山形県鶴岡市立朝陽第一小学校との交流活動を主な柱として、年間指導計画を作成している。

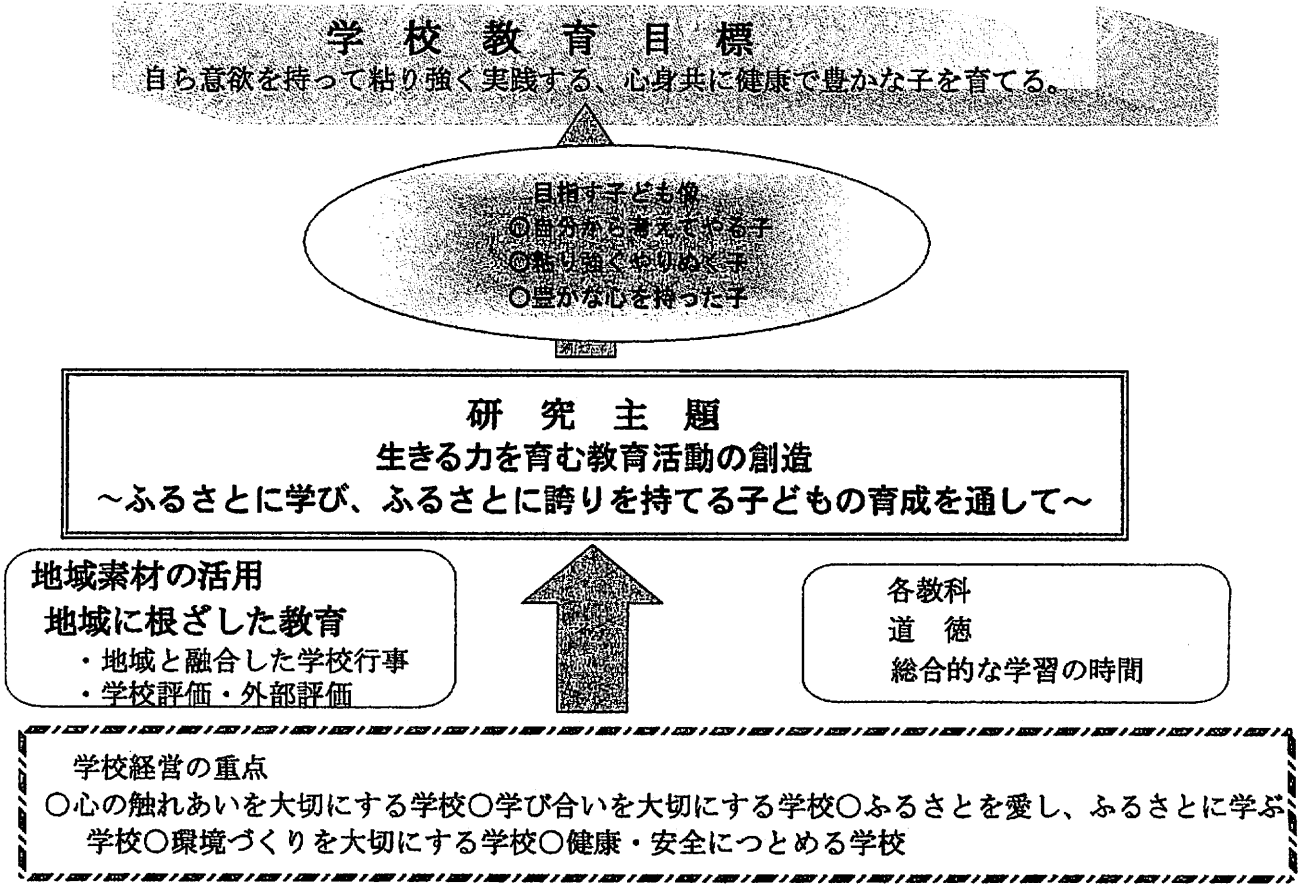
「鶴っ子タイム」(総合的な学習の時間)の年間計画			
月	3, 4年	5, 6年	名人(地域人材)の活用
4	オリエンテーション ・総合的な学習の時間について	オリエンテーション ・1年間の学習計画	
5	地域の自然環境に関すること (鶴岡を探検しよう)	地域の産業に関すること (米についてさぐる)	畑作の名人 ・じゃがいも植えについての指導 (植える間隔、土のかぶせ方など)
	オリエンテーション じゃがいも植え 田植え AETによる学習		
6	地域の自然環境に関すること (鶴岡を探検しよう)	地域の産業に関すること (米についてさぐる)	
	サクラマスの放流 花植え AETによる学習		稲作の名人 ・稲の種類や田植えについての指導 ・稲作の匠の水田を使用
7	地域の自然環境に関すること (鶴岡を探検しよう)	地域の産業に関すること (米についてさぐる)	
	森林活動 AETによる学習		花植えの名人 ・花の種類や植え方の指導 ・学校前花壇を使用
8	地域の自然環境に関すること	地域の産業に関すること	
9	地域の自然環境に関すること (鶴岡を探検しよう) (学習のまとめをしよう)	地域の産業に関すること (米についてさぐる) (学習のまとめをしよう)	畑作の名人 ・じゃがいもほりに関する指導 ・良いじゃがいもの選び方の指導
	じゃがいもほり じゃがいも選別、梱包 姉妹校交流(手紙)		
10	地域に関すること (鶴岡の歴史をさぐる)	環境・平和・福祉に関すること (環境問題について考えよう)	稲作の名人 ・稲刈りの手順や束ね方、はさ掛けの仕方の指導 ・脱穀の仕方の指導
	稲刈り 脱穀 姉妹校交流(手紙)		
12	地域に関すること (鶴岡の歴史をさぐる)	環境・平和・福祉に関すること (環境問題について考えよう)	干し柿作りの名人 ・干し柿作りについての指導 柿のもぎ方、干し柿作りの手順など ・山形県鶴岡より送られてきた柿の木
	柿もぎ・干し柿作り体験学習 収穫祭(カレーライス作り) 自然体験学習のまとめ		
1	地域に関すること	環境・平和・福祉に関する	

実践例2 ふるさとのよさを生かした学校経営(大樹町立石坂小学校)

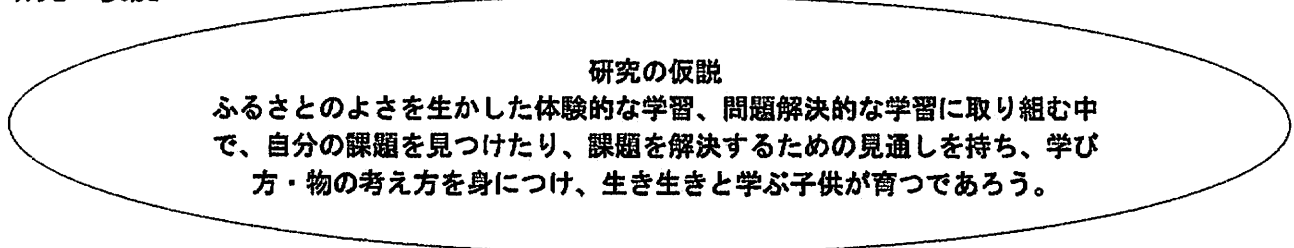
生きる力を育む教育活動の創造

～ふるさとに学び、ふるさとに誇りを持てる子どもの育成を通して～

I 研究の全体構造図



II 研究の仮説



子供に育てたい力

育てたい力1

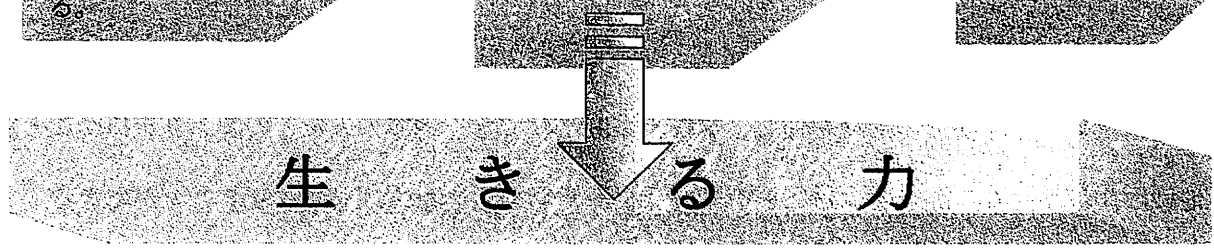
社会や自然に積極的に関わり、課題を見つけ、よりよく解決していこうとすることができる。

育てたい力2

人との関わりを通して、異文化や他者と交わり、自分自身を豊かに表現することができる。

育てたい力3

自分のふるさについて学習しながら、色々な人とふれあうことでふるさとの良さを知ることができる。



Ⅲ 研究の実践

1 計画

時 期	活動 (主題)・ねらい	活 動 内 容	地域との連携
9月～12月	共に生きる (福祉についての研究) ○障害のある人の気持ちや考えを理解し、誰もが仲良く、安心して生活していくためには、どうしたらよいかを考える。	(1) 人に優しい工夫をしているところを探す。 (2) 車椅子を借りに行き、体育館で実際に乗ってみる。体験したことをもとに感想をまとめる。 (3) 障害の疑似体験や障害のある人との交流を通して、障害のある人との交流を通して、障害のある人の気持ちを実感し、自分の問題として捉える。	大樹町福祉協議会との連携
9月～12月	われら地球人 (国際理解についての研究) (1) 世界の人々の文化や習慣について追求し、日本との共通点や相違点に気づき、異文化を理解する。 (2) 調べてわかったことや、自分の考えを様々な方法でまとめたり、発表できる。	(1) 地域や先生方の中で海外経験者を探し、体験談を聞く。 (2) 興味のある国や事柄について調べる。 (3) 調べたことを発表し、今後の見通しを立てる。 (4) ALTとの交流を図る。 (5) 調べてわかったことや自分の考えを様々な方法で発表する。	地元の方や教職員 大樹町のALT

時 期	活動 (主題)・ねらい	活 動 内 容	地域との連携
9月～10月	お年寄りとの交流会 ○お年寄りとの交流を通して、お年寄りを労り、敬愛する心を育てる。	(1) 収穫祭へ向けての作物の研究 (2) 交流会の内容についての話し合い。 (3) 招待状を考え、書く。 (4) 役割毎に当日までの準備をする。 (5) 活動を通じて感じたこと、今後に生かしたいことを振り返る。	地域老人会との交流
9月～10月	ストップ・ザ・交通事故・違反 ○交通事故の恐ろしさを知り、啓発活動を通して、公共のために役立つ活動に関心を持たせる。	(1) 全校でキャンペーンの意義を知る。 (2) キャンペーンに必要なものはどのようなものか考える。 (3) 呼びかけの中身を考える。 (4) 国道でのキャンペーンの練習を行う。 (5) 国道でのキャンペーンを行う。 (6) 活動の振り返りを行う。	地元の警察署との連携 役場防災課との連携 PTA

2 具体的な実践

(1) お年寄りとの交流会

○ねらい

- ・お年寄りとの交流を通して、お年寄りの優しさに気づくことができる。
- ・地域に住むお年寄りとの交流を通し、学校・家庭だけでなく地域の人々との関わりを持つことができる。
- ・地域に住むお年寄りから色々なことを学び、自分たちの生活を広げ発展させることができる。

○具体的な展開

時期	学 習 活 動	教 師 の 支 援、評 価
7月 3週	第1次の活動（2時間） ○オリエンテーション ・収穫祭へ向けた作物のお世話の確認 ・交流会へのイメージをつかむ。	10月までの収穫へ向けて夏休みを継続してお世話するように働きかける。
9月 2週	第2次の活動 ○交流会の内容についての話し合い ・どのような交流かを企画すれば喜ばれるか。 ・昔の生活についてインタビューする。	○教師から事前の連絡をとり、日程面、内容面で負担のかからないようさせる。
9月 下旬	第3次の活動 ○役割毎にそれぞれ当日までの準備をする。 ・招待状を書く。 ・交流会への準備をする。 （ゲーム大会、試食会を企画）	○子供からの心のこもった招待状が届くようにする。
10月 実施	第4次の活動 ○交流会を通して、お年寄りとふれあう。 ・昔の体験談を聞く。昔のおやつづくりを体験する。	○一緒に楽しみながら感謝の気持ちを持たせる。 ○これからも関わりをもっていこうとする気持ちを持たせる。
10月	第5次の活動（振り返り）	

子ども達の持っている思いや経験を十分に生かすようにする。

お互いに楽しめるように考えを出し合えたか。

人のためにすることは結局自分のためになることに気づいたか。

関わり合いながら
学び合うことの
大切さを理解できたか。

お年寄りの感想

昔のかりんとうづくりは、初めての体験でしたが楽しく作業させていただきました。油がはねて大変だったでしょう。今度家でも作ってみようと思っております。楽しい一日でした。来年も楽しみにしております。

Aさん

昔の生活を思うと大変だったと思います。孫達と一緒に楽しく話ながら、昔のおやつを作ることに意義があったと思います。行事をもつことは先生方は大変だと思いますが、よろしくお願いします。一人ひとりの活発な発表、笑顔が心に残っています。年に一度の触れあいを本当にありがとうございました。

Bさん

児童の感想

今年のお年寄りとの交流会では、昔のおやつ作りをととても楽しみにしていました。はじめて、かりんとうやドーナツを作ることができてうれしかったです。それから、戦争のころの話は少し難しかったけれど、当時の大変さや苦勞がわかりました。また、私たちを本当の孫のように思い、見守ってくれていることがわかりました。

私たちの地域には、まだ色々な知識を持ち、たくさんの技術を持っている方が住んでいます。これからも素晴らしい技術や知恵を学んでいければいいと思いました。

(2) ストップ・ザ・交通事故、違反の取り組み

●ねらい

本校は、国道236号線に面している。登下校の指導のみならず、交通安全教室の実施にも細心の注意を払って取り組んできた。また、交通安全キャンペーンの取り組みを特色ある活動のメインに据えてきた。それは、命の大切さを出発点に人とのふれあいや協力してボランティア活動を行う場を設定することによって「豊かな心を育む学校づくり」を推進したいと考えているからである。

ある意味、この取り組みは、型にはまったものにならざるを得ない。そこで、キャンペーンの取り組みの前段に何故このキャンペーンを行うのか、その意義を子ども達と共に考えさせることから出発している。

また、呼びかけをする際にどのようなマスコットやチラシ、宣伝物を用意するか、どのような呼びかけをすれば短時間で、効果的なキャンペーンになるのかを総合的な学習の時間や道德等の時間を活用してじっくりと思考したり、自主的に活動したりできるように配慮している。

さらに、学校のみ活動にとどまらず町や警察、関係機関及び地域と連携を図りながら、子ども達の変容を促す取り組みとして機能させる努力を継続中である。



●育てたい力

低学年～交通事故、違反に関心を持ち、進んで活動に取り組むことができる。

中学年～交通事故、違反に関心を持ち、見通しを持って積極的に活動する。

高学年～交通事故、違反に関心を持ち、見通しを持って自主的に活動することができる。

●展開

①第1次の活動

・交通事故・違反の実態を知り、キャンペーン活動への意欲や関心を高める。

(高学年) 今年度の交通事故、違反のデータを集め、何故このような事故や違反があるのかを子ども達なりに事故分析を行い、中学年、低学年にもわかるような説明を行う。

(全校) 交通事故のビデオを見て、交通事故の恐ろしさを間接的に体験する。

・PTA会長の講話を聞く。

・今まで交通事故に合いそうになったり、危なかった体験などを話し合う。

②第2次の活動

・ドライバーに呼びかける内容を考える。

・交通安全のキャンペーンに何が効果的か考える。

③第3次の活動

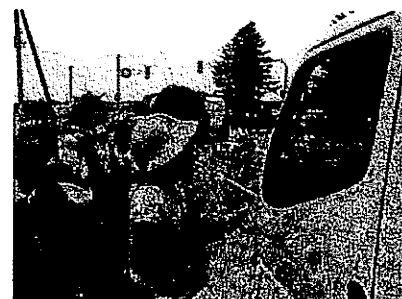
・キャンペーンに必要なものを作成する。(チラシ、お守り、マスコット、飾りなど)

・具体的に呼びかけの練習をする。

④第4次の活動

・国道236号線で交通安全キャンペーンを行う。

⑤第5次の活動 (活動の振り返り)



実践例3 道徳的実践力の育成を目指した学校経営(雄武町立豊丘小学校)

自分のよさを感じられる子どもを目指して

～子どものよさを伸ばす道徳の時間の充実～

I 主題設定の理由

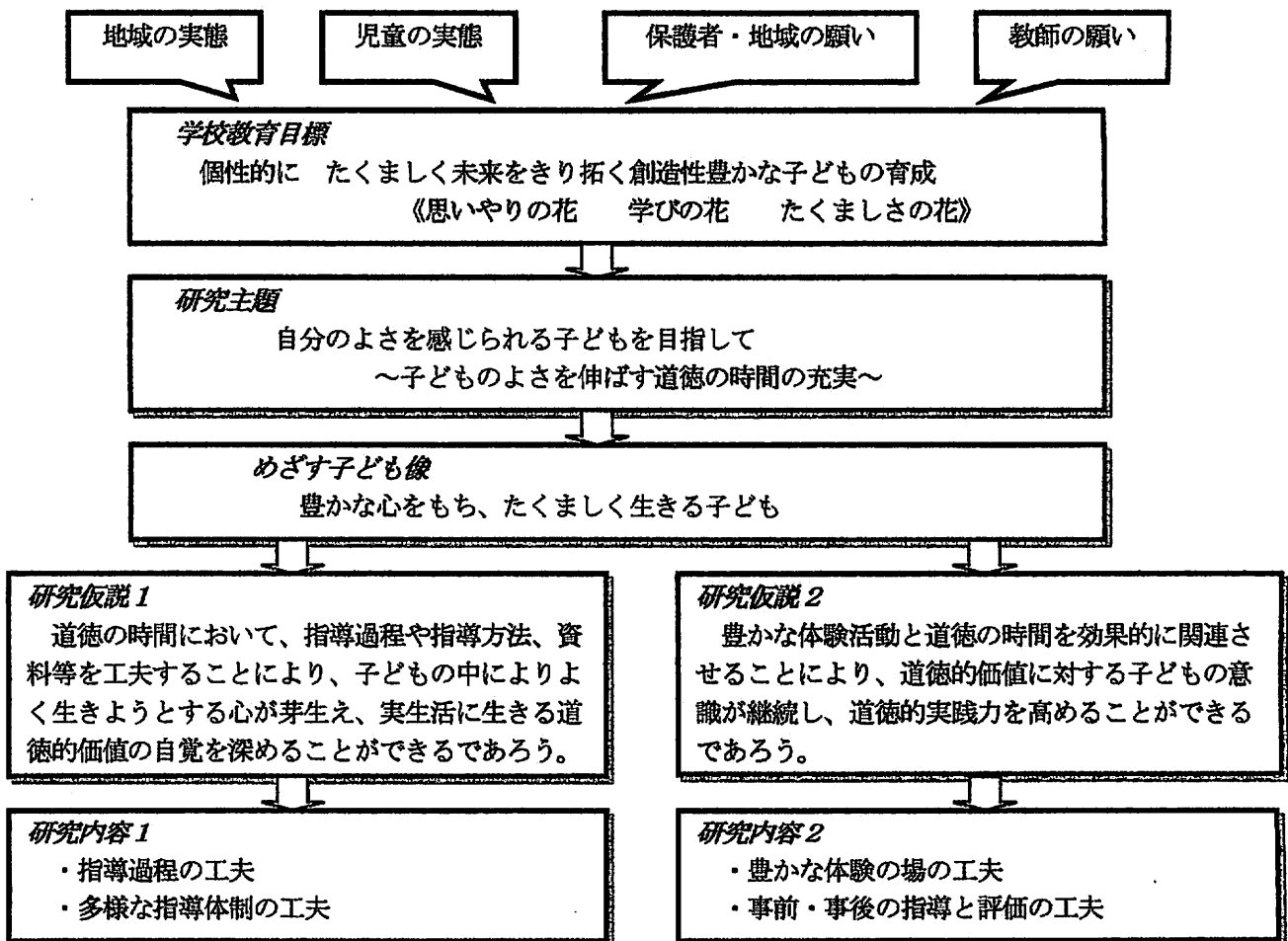
今日、情報化や国際化によって社会が激動する中、主体的な問題解決や個性的な自己実現を目指す子どもの育成が求められている。また、少年犯罪の凶悪化、低年齢化する中、衝動的な言動を抑え、社会的規範や豊かな人間性を身に付けた子どもの育成が求められている。とりわけ学校においては、子どもの自己肯定感の低下など「心の問題」に応えるためにも、「道徳の時間」を要とした「心の教育」を充実し、子どもの豊かな心を育て、共によりよく生きようとする心をはぐくむことが強く求められている。

本校では、この問題に迫るため、「児童の内面理解」、「学校内外における実態把握」をねらいとして、児童の実態把握のためアンケート調査(自己肯定度インベントリー)を実施した。

その結果、各学年とも「仲間関係における自己肯定心」が低い傾向にあることが分かった。

そこで、アンケート結果と本校の目指す子ども像から、道徳教育の中核としての「道徳の時間」の指導を見直すこととした。子どもが今の自分をじっくり見つめ、受け止め、「自分のよさ」を感じ、さらに、「もっとがんばれる」「もっとよくなれる」といった「自己肯定感」を高めることにより道徳的実践力が養われると考え、本研究主題を設定した。

II 研究の全体構造図

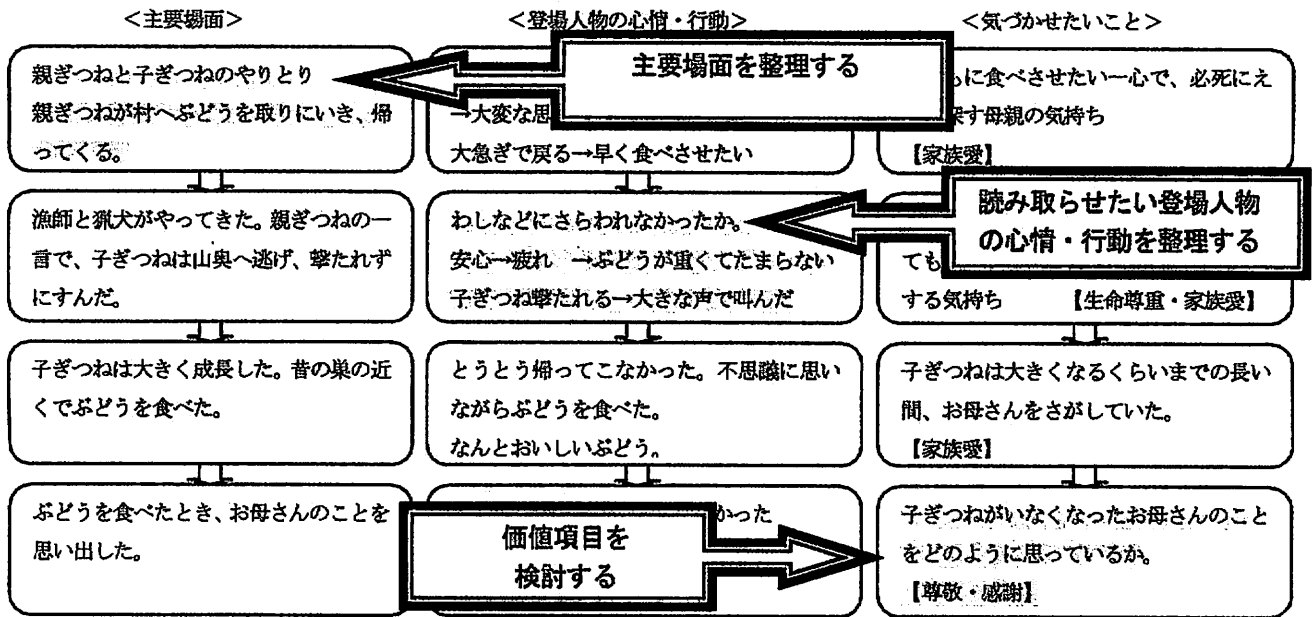


III 研究の概要

1 実生活に生きる道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の指導過程の工夫（研究内容1）

授業の主題を明らかにし、中心課題をどこに位置づけるかなどを検討し、中心価値が授業を通して一貫している「ぶれない授業」を作るために、周辺価値を含めて「資料分析」を行い授業を構造化している。

3,4年「きつねとぶどう」（尊敬・努力感謝）の実践から



◆本校の指導過程の基本形

- ◎導入（受け付く）： ねらいとする価値に気付く
- ◎展開1（つかむ）： 資料による価値の追求・把握
- ◎展開2（見つめる）： 価値の内面的自覚
- ◎終末（あたためる）： 価値の振り返り、実践への意欲化



	子どもの活動と主な発問	子どもの反応	留意点と評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> 気付く ・日常世話になっている人について話し合う。 みなさんは毎日の生活の中で、どんな人たちにお世話になっていますか。 	<ul style="list-style-type: none"> お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん 	<p>＜導入の工夫＞</p> <p>導入段階は価値への方向付けという役割をもつ。導入では、子どもの生活経験や、教師の体験談から主題に興味・関心をもたせるようにしている。</p>
展開1	<ul style="list-style-type: none"> つかむ ・紙芝居を聞いて、話の内容をつかむ。 ・親子のやりとり 		<ul style="list-style-type: none"> 気をつける。 ・子ぎつねのことを思う母親の気持ちを考えさせる。
展開2	<ul style="list-style-type: none"> 見つめる みんが人がで 		<ul style="list-style-type: none"> ◇価値を内面に問いかけ自分の行為を振り返ったり、これからの行為を考えることができる。
終末	<ul style="list-style-type: none"> あたためる ・感謝カードを書く。 日ごろお世話になっている人に感謝の気持ちを表すカードを作る。 ・教師の説話を聞く 		<ul style="list-style-type: none"> ・カードを用意し、事後に渡すようにする。 ・心のノートを使用

＜終末の工夫＞

終末段階は実践への意欲化を図りたい。気持ちを共有したことや価値の自覚を深めたことを確認したり、今後の日常生活でどのように生かしていけるかを考えさせるようにし、教師の説話、作文や詩の朗読、心のノート活用、感想や手紙を書く活動などを取り入れて、授業の最後に余韻をもたせるよう工夫している。（オープン・エンド）

「心のノート」のメッセージ性が強い内容の特性を生かして、実践への意欲につなげる。

2 実生活に生きる道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の多様な指導体制の工夫（研究内容1）

全学年が共通の指導内容を取り扱うことで指導体制に一貫性ができる。そのため、本校では、全校道徳を実施している。道徳的価値観についての教師間の共通理解や課題を把握でき、児童理解がより確かなものになるという成果が表れている。

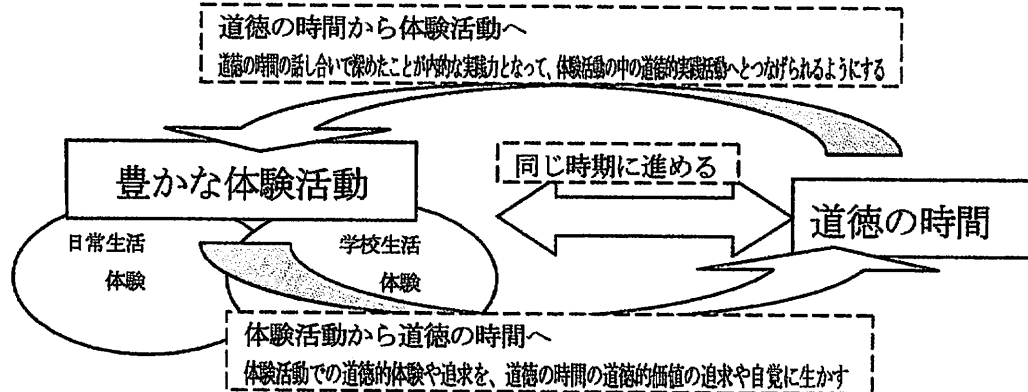
全校道徳「いただいたいのち」（生命尊重）の実践から

指導過程	形態	子どもの活動と主な発問	子どもの反応	留意点と評価		
導入	気付く	1 価値の方向付けを図り、問題意識をもつ。 命が大切だと思ったことがありますか。それはどんなときですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の人が病気になったとき。 ・かわいがっていた動物が死んだとき。 ・テレビで人が死んだニュースを見たとき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・命の大切さについて自由に発表させる。 ・人の生死だけではなく、身近にあるさまざまな命についても考えさせる。 		
		2 授業の目当ての意識化を図る。 今日は、命の大切さについて考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料提示の工夫 資料におかれた状況を実感として伝えるため、大型の絵を使用し、役割を決めて範読するなど教師の読み聞かせの工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭より全児童にわかりやすく説明 		
展開1	つかかむ	3 資料『いただいたいのち』を読んで話し合う。 (あい： おかあさん：)	<ul style="list-style-type: none"> ・資料提示の工夫 資料におかれた状況を実感として伝えるため、大型の絵を使用し、役割を決めて範読するなど教師の読み聞かせの工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に血液のがんについて説明。 		
		<p>全体に足かする資料は、発達段階を考慮しながら、同一のものとする。</p> <p>導入、資料提示は全体で実施する。</p> <p>発達段階を考慮し、低学年・中学年・高学年に合わせた学習活動を行う。</p> <p>全教職員を振り分け、「小」方式で授業を行う。</p> <p>資料の提示、全体の話し合いは必要最小限にして学年での話し合いを多く保障する。</p>				
展開2	見つける	4 友達と意見を交流し、わたしの心情についての考えを深める。 お母さんは、どんな気持ちで、「あなたは、たくさんの人から、いのちをいただいたのよ。」と、言ったのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・表現活動の工夫 子どもが資料の登場人物になったつもりで、感じ方や考え方を表現できるように役割演技を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く活動の工夫 子ども一人一人に自分を見つめさせるため、学習シートや道徳ノートを用いて書く活動を取り入れる。 		
		<p><各学級担当による指導方法の工夫></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>低学年</th> <th>中学年</th> <th>高学年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○表現活動の工夫 子どもが資料の登場人物になったつもりで、感じ方や考え方を表現できるように役割演技を取り入れる。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○発問の工夫 揺さぶりをかけ対立や葛藤を引き出したり、軌道修正するため「補助発問」を有効に活用する。 ○話し合い活動 子どもが相互に多様な考えを出し合い価値を追求していくために話し合い活動を実施。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○書く活動の工夫 子ども一人一人に自分を見つめさせるため、学習シートや道徳ノートを用いて書く活動を取り入れる。 </td> </tr> </tbody> </table>			低学年	中学年
低学年	中学年	高学年				
<ul style="list-style-type: none"> ○表現活動の工夫 子どもが資料の登場人物になったつもりで、感じ方や考え方を表現できるように役割演技を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発問の工夫 揺さぶりをかけ対立や葛藤を引き出したり、軌道修正するため「補助発問」を有効に活用する。 ○話し合い活動 子どもが相互に多様な考えを出し合い価値を追求していくために話し合い活動を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○書く活動の工夫 子ども一人一人に自分を見つめさせるため、学習シートや道徳ノートを用いて書く活動を取り入れる。 				
5 価値を内面に問いかけ自分の行為を振り返ったり、これからの行為を考えたりする。 命を大切にするために、どんな気持ちで生活していったらよいでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ○板書の工夫 ・場面絵や登場人物の絵を生かした構成 ・カードや短冊などの活用 ・効果的な色チョークの使い分け 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合い活動 子どもが相互に多様な考えを出し合い価値を追求していくために話し合い活動を実施。 ・座席配置の工夫 ・形態の工夫 				
終末	あためる	6 本時で学んだ価値について整理し、意識化をはかる。 OGTの話を聞く 学校医（雄武町立国民健康保健病院）より ※心のノートの活用（P.60）	<ul style="list-style-type: none"> ・板書の工夫 ・場面絵や登場人物の絵を生かした構成 ・カードや短冊などの活用 ・効果的な色チョークの使い分け 	<ul style="list-style-type: none"> ○展開2の学習活動 資料から離れ、自分のことについて考える場面での発達段階に応じた指導方法の工夫。 ・骨髄バンクについて考える 		

・ゲストティーチャー（GT）の活用
家庭・地域との連携を図る

3 豊かな体験の場の工夫（研究内容2）

子どもたちが、家庭、地域、学校において様々な体験を通して、考えたり感じたりしたことが道徳の時間に生かされる。「体験活動」は、そのような体験の一部であり、学校の教育活動で意図的・計画的に行われるものである。実体験や現実から学ぶ機会を増やすことで、自分のこととして主体的に受け止められるようになると考えている。



◎道徳年間指導計画の一部

主題名・資料名一覧表（5・6年）

月	週	主題名	内容項目	資料名	出典	具体的実践例との関連
4	1	明るく生きる	誠実・明朗	手品師	贈	入学式・始業式
	2	夢を実現するために	不とう不屈、希望	いつも全力で	贈	1年の目標
	3	あいさつの大切さ	礼儀	オーストラリアで学んだこと	贈	あいさつ運動
5	1	役割と責任の自覚	社会的役割・責任	幸せを送るリーダーに	贈	前期児童会
	2	親切の温かさ	思いやり・親切	心に通じた「どうぞ」のひとつ	贈	遠足
	3	命を大切に	生命尊重	いただいた命	贈	栽培活動
7	2	郷土を見直す	郷土愛	親から子へ、そして孫へと	贈	魚田祭り
	3	身の回りの整理整頓	節度ある生活態度	散らかし魔	贈	1学期の反省

学校やPTA、地域の行事を整理し、体験的要素を含んだものを確認できるようにしている。

本時の展開

指導過程	学習活動（発問・指示）	予想される児童の反応	留意点と評価の観点
導入	自分の住んでいる地域、昔から伝えられてきたもので、知っているものはありますか。 自分の住んでいる地域の文化や伝統について考えよう	・魚田まつり ・魚田祭り	○発表させることで、ねらいとする価値への加付けを 事前に参加した地域の行事を想起できるようにする。
展開1	○資料「親から子へ、そして孫へと」を読んで話し合う。 健太は「自慢できるものは」と聞かれたとき、どんな気持ちだったでしょうか。 神楽をあと数年でやめなければならぬと知った健太は、どんな気持ちだったでしょうか。 厳しい練習についていけない健太は、どんな気持ちだったでしょうか。 「子どもの手による北山神楽」というポスターを見て、健太はどんな気持ちだったでしょうか。	・北山神楽しかない ・残念だな ・なんか続けられないかな ・つらい思いをしてまでやることない ・北山神楽を続けたい ・これからの人も続けてほしい	○外国人に自慢できることを話す健太の気持ちに共感させる。 ○地域のことを知った健太の気持ちを考えさせる。 ○つらい練習をしている健太の気持ちを考えさせる。 ○豊の郷土、豊の父の言葉、清三じいさんの言葉を考えさせる。 ○郷土の文化や伝統の大切さを考えることができる。
展開2	○資料から離れ、自分のことについて考える。 自分の住んでいる地域で、大切にされている文化や伝統にどんなものがありますか。	・魚田まつり ・漁業が盛んだ	事前に参加した地域の行事を想起できるようにする。
終末	○OGTの話を聞く。		○先入りの感情の気持ちを育てる。 ○郷土を大切にすることから、日本の国を大切にすることを考えさせる。

4 事前・事後の指導と評価の工夫（研究内容2）

道徳の時間のみで子どもの変容を評価することは難しいが、日頃から変容や変容しようとしている時を見逃さず、長いスパンで見取っていくことが大切になってくる。

本校では、子どもの道徳性を見取るために、全教職員がいろいろな場面で子どもたちと接するようにしている。そして、その見取った情報と作文や絵日記、ノートなどの情報を交流する場として、週に1回会議を開き、教師が共通理解を図れるようにしている。

◎日常での評価方法

段階を事前、体験活動・授業、事後の3つに分けて、日常の中で子どもを見取る場面を明確にした。個人票という形にし、観点を内容項目にすることで、一人ひとりの評価が的確になされるようになった。

内容項目	2- (1) 礼儀	4- (7) 郷土愛、愛国心	
事前	あいさつを返すのがやっとだった。	自分の住んでいる地域について、ほとんど知らない。	事前欄には、本時の目標に関わる子どもの実態を記入する。
授業 体験	授業・「オーストラリアで学んだこと」 ↓ 体験・「あいさつ運動」	体験・「魚田まつり」 ↓ 授業・「親から子へ、そして孫へ」	授業、体験活動欄には、それぞれの内容と、行った順序を書き込む。
事後	自分からあいさつができるようになった。	調べ学習で、「地域の伝統文化について」を課題とし、まとめることができた。	事後欄には、子どもの変容を的確に捉えて記入する。

◎道徳の時間での評価方法

下の表を使って、子どもの道徳の時間での変容を観点別に見取っている。1時間での子どもの変容がひと目でわかるように工夫し、次時や体験活動につなげられるようにしている。

児童Aの場合

項目	子どもの姿	支援	理想像	変容
表情・態度	・さえない	・意図的指名 ・共感的な態度	・目が輝いている ・意欲的である	・発言者の方を向き、うなずきながら聞くようになった (観察)
発言内容	・自分の考えを話す	・共感的な態度 ・ペアによる話し合いの場の設定	・友だちの発言を聞いて、自分の考えを深めることができる	・友だちの発言を聞けるようになった (観察)
役割演技	・緊張する、照れる	・演技力を問わない ・助言や励ましの言葉	・いつものように、自分の言葉や動作で表すことができる	・相手の反応に合わせて、即興で演じることができた (発言・行動) ・役割を交代して演じることができた (発言・行動)
ワークシート		・書くことで自分の考えをもつ	・自分の考えを文章でまとめることができる	・キーワードを挙げられた (ワークシート)

児童Bの場合

項目	子どもの姿	支援	理想像	変容
発言内容	・まとめて発表できない	・共感的な態度	・上手にまとめて発表する	・自分の考えを伝えようとする姿勢が見られる (観察)
役割演技	・照れて演技にならない	・演技力を問わない ・雰囲気作りをする ・助言や励ましの言葉	・自分の言葉や動作で表すことができる ・即興で演技ができる	・相手の反応に合わせて、返すことができた (発言・行動) ・自分の考えを発表できた (発言・行動)

児童Aの場合は「表情・態度」について、児童Bの場合は「役割演技」について、顕著に変容が見られたと言える。この授業の前に行った体験活動において、2人が感じたことや考えたことがこの授業の中で生きる形になっている。

課題4 校内研究と共同研究の充実

実践例 集合学習による共同研究を図った学校経営(弟子屈町立弟子屈小学校)

I 研究の概要

1 研究主題

「自ら学び、たくましく生きる子どもの育成」
～ 一人一人が学ぶ楽しさを味わえる集合学習のあり方を求めて ～

2 集合学習でめざす子ども像

- ◎ 多人数で学ぶ楽しさを味わい、自分らしさを表現する子
- ・自分の考えをもち意見を発信する姿
 - ・友達や自分のよさを見つける姿
 - ・お互いを理解して集団の中で自分の役割を果たそうとする姿
 - ・自分がやりたいことを見つけ実現しようとする姿



教師側の姿勢として…

- * 同じ思いで指導・支援にあたること
(指導理念の一貫性)
- * 4校の子どもたち全員の担任という気持ちで接すること
- * 一人一人の情報交流を綿密に行うこと



3 研究計画

(平成14年度 集合学習の準備期 ・集合学習の構想 ・研究体制の確立)	
平成15年度	集合学習の実践期 (集合学習との出会い)
平成16年度	集合学習の実践期 (集合学習での追求)
平成17年度	集合学習の整理期 (集合学習の振り返り)
平成18年度 平成19年度	集合学習の発展期

II 研究の内容

1 研究の仮説

【仮説1】

ねらいを明確にした集合学習を展開すれば、活動の広がりや思考の深まりがみられ、学ぶ楽しさや成就感を味わわせることができるだろう

【仮説2】

児童の学ぶ姿に合わせて、適切で効果的な支援をすれば、一人一人のよさをのばすことができるだろう

2 研究の視点

子どもたちが、集合学習の中で友だちと心を通わせたり、集団での楽しさを感じたりすることができるような学習活動を通して主題に迫るために、指導計画の工夫を柱においた研究の視点を次のように設定した。

多人数で学ぶ楽しさを味わえる指導計画の工夫

【視点1】
子どもによる学び合い
が生まれる全習・分習
の工夫

<具体的な手だて>
*全習と分習の目的を
明確にした授業
*綿密な打ち合わせ

【視点2】
一人一人のよさを伸長
する協力教授の工夫

<具体的な手だて>
*CT・STの役割の
明確化
*CH(チェッカー)の活用

【視点3】
一人一人を的確に見取
る方法

<具体的な手だて>
*チェックカードで子
どもを見取る
*ふり返りカード

- ◎ ともに学ぶために4校の子どもたちが自由に交流できる場面を設定する
*「4校顔合わせ会」の実施
*全習の際には、4校一緒に給食を食べる
*全習の時間帯の弾力的な運用

【視点1】

子どもによる学び合いが生まれる全習・分習の工夫

具体的な手だて

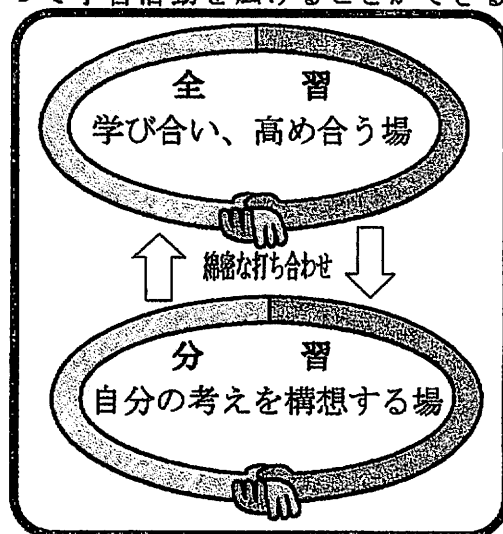
1. 「全習」と「分習」の目的をはっきりさせて授業づくりを行う

<全習の授業>

- ① いつもより多い人数の中で一人一人が自分の考えを出したり友だちの意見を吸収したりする活動を通して多様な価値観と出会うことができる。
- ② 友だちとの交流から互いに学びあうことができるように、子どもたち同士で意見を出し合う場面や力を合わせる場面の設定によって学習活動を広げることができる。
- ③ 1回の全習時間を90分間設定することで子どもたちが全習の時間に他校の友だちと学び合い高め合う時間を保障することができる。(90分の使い方については各部会で弾力的に運用する)

<分習の授業>

- ① 子どもたちが、「この学習において自分はどう考えるのか」「自分がやりたいことはどんなことか」といった自分の考えを構想することができる。
- ② 少人数の特性を生かして、学習内容の基礎的・基本的な力を身に付けることができる。
- ③ 全習での学習をいかして、自分の考えをより深めたり学習内容についての理解を確かなものにすることができる。



「全習」「分習」の役割をはたすために…

2. 共通理解して指導にあたるために綿密な打ち合わせを行う (視点2との関連)
各部会の打ち合わせの中で、『集合学習を通してこの教科・単元で子どもたちにつけたい力は何か』を明確にし、「全習で学び合うこと」「分習の時間に各学校で学んでくると、構想してくること」について綿密に打ち合わせを行う。

【視点2】

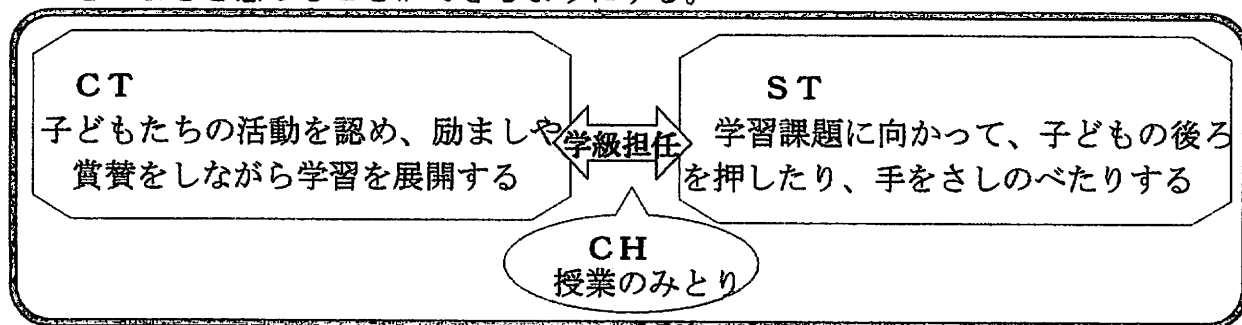
一人一人のよさを伸長する協力教授の工夫

具体的な手だて

1. CTとSTの役割を明確にして「全習」の指導にあたる

- ① 『どのように指導・支援をすれば効果的な集合学習になるのか』という共通の視点で、活動や思考が深まるような集合学習のあり方を追究していくために、CT・

- STが「何を」「どのように」「どこまで」指導・支援するかををはっきりさせる。
- ② 教師側のチームワークのよさを子どもたちに感じさせることで、多人数で学ぶことのよさを感じることができるようにする。



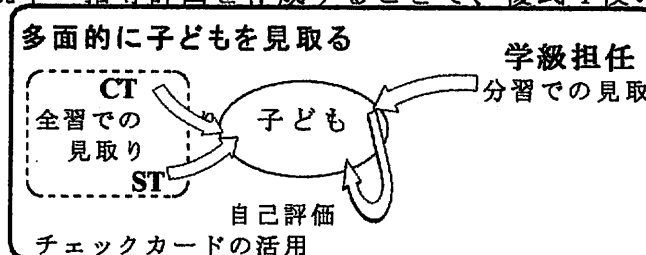
2. 子どもたちに身に付けさせたいことを共通理解して「分習」の指導にあたる
- ① 「全習」で子どもたちが自分らしさを表現できるように、「分習」では考えを構想する手がかりを見つかることができるよう指導と支援を行う。
- ② 「分習」から「全習」へ、または「全習」から「分習」へ学びがつながっていくように、「分習」のよさである一人一人の様子を細かく見取る事を行っていく。
3. CH（チェッカー）を活用して、授業をふり返る
- ① 「全習」での活動内容が効果的であったか、協力教授が効果的に行われていたかを判断するためにCHを活用する。
- ② CHは、子どもたちへの指導を行わず、「全習」での学習活動の流れ、CTとSTの指導や支援の役割、子どもたちの様子などについて学習目標と照らし合わせながら授業全体を客観的に見取り評価カードに記録する。
- ③ CHの記録を基に、部会毎に「全習」の中での支援が適切であったかどうか、子どもたちはどのような指導や支援を必要としていたかを中心に授業反省し、次時以降の「全習」や「分習」について検討する。

【 視点3 】

一人一人を的確に見取る方法

具体的な手だて

1. チェックカードを活用して、子どもたちのよさを見取る
- ① 「全習」では、たくさんの先生方の目で、子どもたち一人一人のよさや変化を見つけていけるように、授業を行うCTとSTが授業中または授業後に子どもたちの活動やつぶやきなどをチェックカードに記載する。
- ② 「全習」で学級担任が自分の学級の子どもの見ることが出来なかった場合でも、チェックカードによって、子どもたちの様子を把握することが出来る。
- ③ たくさんの先生が子どもたちの様子を見ることによって、学級担任や子ども自身が気付くことがなかったその子のよさの再発見につながる。
- ④ たくさんの先生の視線によって、子どもたちの活動の様子を判断し、授業の改善へとつなげ、指導と評価の一体化を図る。
2. 学級での見取りを集合学習につなげる
- ① 集合学習の授業を構想する段階で、子どもたち一人一人の様子や留意点について情報交換を行い、単元の目標や評価規準・指導計画を作成することで、複式4校の子どもに応じた授業づくりを行う。
- ② 子どもたちの「分習」での様子を「全習」の指導者と情報交換したり「全習」での様子を学級担任に伝えることで、一人一人の学びの状態を多方向から見取ることができる。



3. 子どもたちが、自分の学習活動をふりかえるためにふり返りカードを活用する
- ① 学年に応じて、選択式・記述式のふり返りカードを準備し、「全習」の自己評価を行う。
- ② CHの記録とチェックカードやふり返りカードなどを参考にしながら授業の改善と充実につなげる。